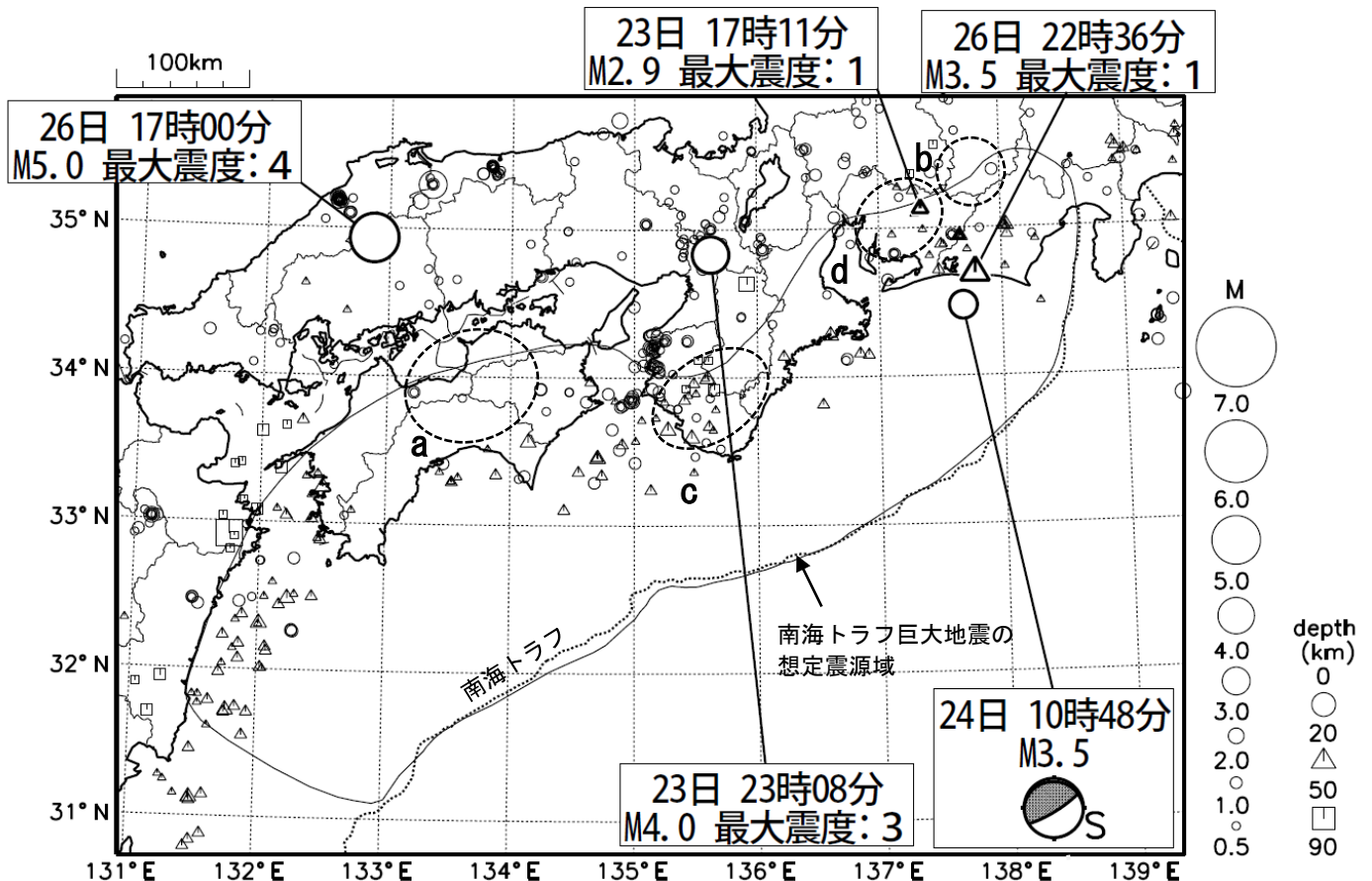


南海トラフ周辺の週間地震活動概況 No. 26

*震源時、震央地名、マグニチュード等は、再調査により修正することがある。

震央分布図（平成30年6月22日～6月28日）



“南海トラフ巨大地震の想定震源域で震度1以上を観測した地震もしくはM3.5以上の地震”及び“その他注目した地震”に「震源時、マグニチュード、最大震度」を付している（ $M \geq 0.5$ 、震源の深さ0～90km）。
発震機構解の横に「S」の表記があるものは、精度がやや劣るものである。

[概況]

19日以降長野県付近、22日から25日に和歌山県から奈良県付近、27日以降愛知県付近のプレート境界深部で短期的ゆっくりすべりが発生していると推定される。

24日10時48分に、遠州灘の深さ19kmでM3.5の地震が発生した。

[主な地震活動]

・24日10時48分に、遠州灘の深さ19kmでM3.5の地震（震度1以上を観測した地点はなし）が発生した。この地震は、発震機構（参考解）が北北西-南南東方向に圧力軸を持つ逆断層型で、フィリピン海プレートと陸のプレートの境界で発生したと考えられる。

[主な深部低周波地震（微動）活動^{※1}と地殻変動]

[領域a]13日から26日に、愛媛県東予から徳島県北部、香川県西部にかけて深部低周波地震（微動）を観測した。

[領域b]19日以降、長野県南部で深部低周波地震（微動）を観測している。

[領域c]22日から25日に、和歌山県から奈良県にかけて深部低周波地震（微動）を観測した。

[領域d]27日以降、愛知県で深部低周波地震（微動）を観測している。

領域b、c、dの深部低周波地震（微動）活動とほぼ同期して、周辺に設置されている複数のひずみ計^{※2}に変化が現れた。これらは、プレート境界深部において発生した短期的ゆっくりすべりに起因すると推定される。

※1：上の震央分布図には、震源決定精度が高い地震の震央のみを表示している。このため、震源決定精度が低い深部低周波地震（微動）の震央は表示していない。

※2：気象庁、静岡県及び産業技術総合研究所のひずみ計。